

第27号
2015.2

あきた 留学生交流



「第三の故郷を見つける農家民泊2014」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

あきた 留学生交流

第27号
2015.2

表紙題字
秋田大学教育文化学部
長 沼 雅 彦 名誉教授

C O N T E N T S

1 巻頭言

国立大学法人秋田大学 学長 澤田 賢一

構成員大学からの寄稿

2 地域貢献と国際交流

国際教養大学企画課 研究・地域連携支援チームリーダー
日比野 浩平

留学生からのメッセージ

3 ゲームをきっかけに知る日本の風習

ノースアジア大学経済学部交換留学生
陳 盈臻 (台湾)

4 秋田での留学生活

秋田県立大学
総合システム科学専攻博士3年
臧 利敏 (中国)

5 国際教養大学での生活

国際教養大学短期留学生
ボンコ・ピラパタナポーン (タイ)

6 しょうがなく秋田に来た。 でも、ここでいがあった。

秋田工業高等専門学校機械工学科5年
ブーラナアモン タナバ (タイ)

7 私の第二故郷ー秋田

秋田大学工学資源学部環境応用化学科3年
ホアンティースーン (ベトナム)

8 留学体験寄稿～秋田から世界へ～

異文化に学ぶ

国際教養大学国際教養学部4年
大江 彩水 (日本)

9 卒業予定者からのメッセージ

日本での就職

秋田県立大学機械知能システム学専攻修士2年
朱 泰林 (中国)

10 留学生交流事業

第三の故郷を見つける農家民泊2014

国際交流団体等の活動紹介

11 あきたのファミリー

(公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

12 ハンド in ハンド・手と手をつなぐ ～国を越え、世代を越え～

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

13 UNESCO・New Year Festa 2015 歌でつながる世界

秋田ユネスコ協会

14 毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

15 協会設立10周年モンゴルの魅力を発信

秋田モンゴル友好協会

16 国際交流のより大きな輪

国際交流オープンクラス

17 留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校、秋田県立大学、ノースアジア大学、
国際教養大学、秋田大学

19 平成26年度国際交流事業の実施状況

24 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)
住居形態別留学生数 (平成26年10月1日現在)
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況
(平成26年10月1日現在)

26 平成26年度秋田地域留学生等交流推進会議

秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨
秋田地域留学生等交流推進会議要項
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

裏表紙

推進会議へのご意見や情報提供について

巻頭言



国立大学法人秋田大学

学長 澤田 賢一

米国留学を前にして、お世話になった先生を訪ねたところ、「留学で一番大事なのは研究の成果ではなく、肌の色や言葉の違う人たちとの交流です」というお言葉をいただきました。今から28年前のことです。渡米前は、研究成果を挙げられるのかどうかと緊張に包まれていましたから、恩師の言葉でなんとなく気が楽になったのを覚えています。留学で出会った人々は同じアメリカ人でも、ヨーロッパ系、ヒスパニック系、アジア系、インド系などさまざまな国の文化を背景としている人々でした。片言の言葉で意思疎通をはかり、通じる嬉しさと、そしてともに通じない歯痒さをいつも感じていました。それでも、気持ちは通じていたような気がしています。皆さん、優しくかった。むしろ、中途半端に英語が通じるようになった時期の方が「誤解」も生じたような気がします。言葉の端々に傲慢、偏見、狭量、無知などが垣間見えるようになっていたのだと思っています。

家族ぐるみのお付き合いもいくつか、させていただきました。クリスマスやハローウィン、サンクスギビング、卒業式などさまざまな行事にお誘いいただき、その国の文化と自然に触れ合うことができたのは大変興味深いことでした。家族同様の扱いで迎えてくれたことを大変ありがたく思いました。家内がホームシックになったときも、一緒に旅行に行ったり、食事をしたりと、日本人以上の思いやりを深く感じたものです。日本人特有の考え方や感じ方というのは確かにありますが、人を思いやる心は全世界共通であることを学びました。

私の専門は医学です。内科学の教室に所属して臨床と研究を行い、医学博士を取得して、留学したのは卒業10年目でした。目的ははっきりしていて、研究能力の向上と証明です。もし成果を上げれば帰国後も研究を継続できる可能性が高くなりますが、逆ならば研究への道はほぼ閉ざされます。幸い、私の研究は順調に進んで3年後に帰国し、その後の研究生活へとつながりました。最初の年のサラリーは2万ドルでした。当時の警察官

の給与より若干高いレベルです。3年目には2倍になりましたが、それでも帰国した時には貯金の大部分を使い果たしていました。

どういう生活をするかにもよりますが、留学というのはお金がかかります。ですから、私はこれまで、学生さんには、留学は勝負であると言ってきました。一度しかできないので、卒業後、自分のキャリアを伸ばすために勝負をするべきで、学生時代に留学する意義は乏しい、とっていました。ただ、今は時代が違います。また、学生の場合には研究留学する訳でもありません。人ともとの情報が瞬時に全世界に行き渡る時代に、日本国内や秋田に留まっていたのでは意識の上で遅れを取ります。学生時代の留学は短期でいいと思っています。その間に、自分と同じ世代の人たちが如何に真剣に生きているかを見て来て下さい。また、言葉が通じる嬉しさと通じない歯痒さを実感してきて欲しいと思っています。きっと世界の中の自分を感じ、これからどのように生きていくかを考える上で貴重な経験になると思います。

異国の地に暮らすことは新鮮で冒険に満ち、沢山の嬉しい出会いがあります。その一方で、言葉の壁や文化の違い、食べ物や生活習慣の違いなどで戸惑うことも少なくありません。時には、生活することそのものが辛くなることもありますし、懐かしい人を思って涙することもあるでしょう。そんな時は特に、異国の人々から寄せられる思いやりのありがたみが身にしみます。私が受けた異国の人々からの思いやりを、今度は、この秋田の地に海外から留学しているみなさんにお返しできればと思っています。

秋田に留学中のみなさん、秋田での生活がより良いものになりますように願っています。また、秋田で学ぶ日本の学生諸君、留学生との交流を通して、世界を見ようという気概と勇気、そして好奇心を培いましょう。様々な可能性を秘め、秋田の地に集う学生さんたち。すべての皆さんの将来に対する夢と希望がここで凝縮し、将来のご活躍に結びつくことを祈念しております。

地域貢献と国際交流

(国際教養大学企画課 研究・地域連携支援チームリーダー 日比野 浩平)

4月と9月の年2回、入寮、入学式、オリエンテーション、履修登録と目まぐるしく続く行事をこなし、留学生のほとんどが初めて足を踏み入れることになる秋田での留学生活が始まります。在籍する学生の約2割が留学生となる国際教養大学のキャンパスでは、これらの節目の時期を境に、異文化度がいっきに高まり、活気を帯びます。

長くても1年、短い場合は1学期間（春学期または秋学期）の留学で帰国してしまう短期留学生たちは、ありとあらゆる機会を使って秋田での滞在を楽しもうとします。一方、地域からも、異文化理解や英語学習などの様々なニーズから、これら留学生との交流を求める要望が寄せられます。本学では、双方からの期待に応えるべく、留学生と地域との交流活動に積極的に取り組んでいます。現在、年間200件以上の交流活動を行っていますが、これは地域貢献活動の数値目標を達成するために開拓して行っているのではなく、すべて地域からの依頼に基づいて行っているものです。

県内自治体と連携協定を結び行っている異文化交流事業は、平成19年度に八峰町、平成21年度に大仙市、平成22年度に男鹿市、平成23年度に由利本荘市、平成24年度に美郷町、そして平成26年度に仙北市と、徐々に活動範囲を広げています。それぞれの市町内の小中学校等を留

学生が訪問して行う交流のほか、児童・生徒が本学を訪問して行う交流など、双方向の交流が年間を通して繰り返されています。また、地域の伝統行事、祭り、農作業体験などに参加する交流や、様々な国から来る留学生の視点や経験を生かした依頼に応える交流などもあります。

地域交流以外にも、本学では、国際的なテーマでの公開講座や国際シンポジウムなどを一般市民の方々を対象に年間を通して多数開催しています。また、秋田市内にあるサテライトセンター（カレッジプラザ内）では、語学学習の場を一般市民に無料で開放しており、外国語の視聴覚教材を多数とりそろえているほか、留学生が講師を務める英会話のクラスを提供するなど、知的交流の機会も提供しています。

大学の地域貢献という観点から始まったこれらの国際交流活動は、10年間の積み重ねにより、単に数が増えただけでなく、大学と地域双方の理解を深め、留学生の満足度を上げるなど様々な副次的な効果を生んで、本学にとって欠かせない活動に発展してきました。年間200件以上の交流を運営するのは容易ではありませんが、留学生にとっても地域の方々にとっても、まさに「一期一会」の貴重な機会であるため、その重みを自覚しながら、お互いにとって有意義で楽しい交流機会をこれからも提供し続けていきたいと思えます。



小学生との英語交流活動の様子



サテライトセンターでの英会話クラスの様子



ゲームをきっかけに知る日本の風習

ノースアジア大学経済学部 交換留学生

陳 盈臻 (台湾)

こんにちは、私は台湾から来た陳盈臻（チンインゼン）と申します。現在ノースアジア大学経済学部在学中です。日本に興味を持った一番の要因は、中学生の時に日本のアニメやドラマ等に触れたことです。それから日本語の勉強を始めたのですが、一つの言語を学習するという事は、その国に行き、身をもって学んでこそだと考えました。

初めて秋田を知ったきっかけは先輩が撮った竿燈まつりの映像です。重そうな竿燈を、しかも片手で持ち上げる姿に興味を引かれ、一度自分の目で見てみたいと思いました。雪の写真にも興味を引かれました。台湾には雪がないので一度も雪を見たことがありません。ですから雪があるところで暮らしてみたいとも思いました。そしてそれは12月に叶いました。雪が積もって真っ白でとても美しい景色でした。友達と一緒に雪だるまを作ったり、雪合戦もしました。北国の人にしか体験できない冬の素敵なおとこです。

10月、留学生のみんなと一緒に太平山で紅葉狩りを体験しました。秋の深まりとともに紅く染まった葉が色鮮やかで、とても綺麗でした。みんなで協力して火を起こして作る「なべっこ」はとても美味しかったです。あたたかい鍋で胃が満たされ、みんなの心も解きほぐされました。他の国の留学生とも交流して、とても有意義な一日を過ごすことができました。

話しは変わりますが、現在私はIngress（イングレス）という位置情報ゲームに熱中しています。このゲームは現実にある石碑や寺、神社などの場所に行く必要があります。おかげで観光客が行かないような場所も訪れました。驚か

されるのは「本当にここに人が来るの?」と思ってしまうような場所にも神社があることです。

調べてみると日本には八百万の神という考え方があったと知りました。たとえばキリスト教ならイエス・キリスト、仏教なら観音菩薩、私の生まれた台湾で普及している道教では元始天王など決まった信仰対象があります。日本の神という考え方は山や川など自然のものや、古くなった物などあらゆるものに神が宿るという考え方で、これは世界的にも珍しいことだそうです。もしかしたら私が巡った神社の中にも、地域限定の神社があったかもしれません。きっかけはゲームですが、実際にその場所に行き、空気に触れることで、今まで考えなかったことを考え、知ることができ大変興味深かったです。





秋田での留学生活

秋田県立大学
総合システム科学専攻博士3年

臧 利敏 (中国)

私の出身大学の所在地である蘭州市は、1982年に秋田市と友好都市を締結しており、文化、体育、教育などの交流を行っています。秋田米、秋田杉、温泉、自然風景などは蘭州市でも良く知られており、秋田への憧れは以前から持っていました。

2011年6月に、私は中国蘭州大学高分子化学と物理の分野の修士課程を修了しました。高分子材料に関する研究に大きな興味を持っていましたが、これまでに自分の専門知識の不足で研究を上手く進めることができませんでした。そこで、より高度な高分子材料・複合材料に関する専門知識の勉強および研究を行いたく、日本への留学を希望した次第です。

2012年10月に、幸運にも、秋田県立大学大学院に入学することができました。秋田に来たばかりのころは、日本語があまり話せなかったことと、ホームシックなど、環境になれるまで大変でした。しかし、親切な大学の先生や、いつも素敵な笑顔で迎えてくれる周りの皆様のおかげで、私は徐々に秋田の留学生活に慣れ、秋田での生活を楽しめることができました。春の花見、夏の花火、秋の紅葉、そして冬の雪祭りなど、秋田が大好きになりました。

秋田の美しい自然より秋田の人々の方がより素敵です。私が知っている周りの日本人は、何

事にも一生懸命頑張る人達です。その影響を受けて、自分の研究や生活に一生懸命取り込むことができました。

秋田での留学は早くも2年間を経ちました。そして今年9月に卒業することになります。日本での留学は自分自身の成長にとって本当に良い機会だったと思います。

私の夢は大学の教員になることですが、自分の留学した経験を生かし、将来は、中国と日本に貢献できる人材として活躍したいと考えており、微力ながら日本と中国の友好交流に尽力したいと思います。





国際教養大学での生活

国際教養大学 短期留学生

ボンコ・ピラパタナポーン (タイ)

私は、タイのチュラロンコン大学から留学しています。若者に人気の日本文化に大変興味があったため、国際教養大学に交換留学生として一年間留学することになったときは、一生に一度のチャンスと思い全く迷いはありませんでした。

私が国際教養大学を選んだ理由の一つは、国際的な大学であるということです。全ての授業が英語で行われるため、私のように日本語を学んだことがない学生もどの授業も言語の制約が無く受けることができます。また、学生も皆英語でのコミュニケーションができるため、言語の壁も無く、世界中から集まった学生と友達になる機会があります。

秋田は大自然に囲まれた、美しく平和な場所です。私はこの地域に心を奪われました。大都会で育ったため、私にとって静かで平和な秋田は全く新しい世界だったからです。ここでの生活は都会よりずっとストレスが少なく、さらに秋田の人々はとても親切でフレンドリーです。彼らはいつも外国人を助けようとしてくれて、私は温かい気持ちになります。

国際教養大学のキャンパスは秋田市にあります。校舎はとても近代的で、Wi-Fiも使用できて便利です。ITルームと図書館は毎日24時間開いています。さらに、外国語を学ぶための教材が揃う「言語異文化学習センター」もあります。国際教養大学の職員はとても親切で助けられています。彼らは留学生が到着時に空港まで迎えに来てくれ、銀行口座の開設を手伝い、たくさんのオリエンテーションを用意し、その後も大事な情報をメールで提供してくれます。さらに、毎学期無料のバスフィールドトリップを企画してくれています。秋には、山形と横手へのバストリップに参加し、とても楽しかったです。

学業の面では、経験と知識が豊富な教員が多くいて、オフィスアワーには熱心にアドバイスをくれました。また、茶道、書道、華道といった日本文化について学びたい学生にはうってつけの授業もあります。

国際教養大学にはたくさんのクラブやサークルがあり、私はヤートセクラブに所属しています。ここは健康な体を作ると同時に、友達を作り、関心のあることを共有する場でもあります。

その他に最もおもしろいことの一つは、様々なアクティビティを通じて地元の人々と触れ合うことができる地域交流活動です。私は、稲刈りやサテライトセンターでの英会話パートナーといった活動を通じて秋田についてより理解するとともに、コミュニケーションを通じて幸せを感じています。

私がここに来てから、もう4カ月が過ぎました。素晴らしい経験が続き、あっという間に感じられます。国際教養大学での生活で私はたくさんのことを学びました。私を大きく成長させてくれた国際教養大学と秋田にとっても感謝しています。秋学期は終わってしまいましたが、ここでの思い出は決して忘れることはないでしょう。





しょうがなくて秋田に来た。 でも、ここでいがあった。

秋田工業高等専門学校
機械工学科5年

ブーラナアモン タナパ (タイ)

どうも。こんにちは。私は、ブーラナアモン タナパと申します。生まれはタイのバンコクです。タイの高校を卒業した後、日本に来ました。日本語の勉強のために一年間も東京に住んでいて、その後、秋田に引っ越しし、秋田高専に3年次編入学をしました。それから今までそろそろ3年になります。

私は秋田に来たばかりの時によく聞かれていた質問は「何で秋田を選んだの?」というものです。その質問に対して答えるのに困っていました。なぜなら、私は秋田を選んだわけじゃなくて、奨学金の関係で秋田に来ることになってしまいました。その時、私は「さて、これから俺はしょうがなくて来た秋田でどのように生活を楽しむだろう」と自分に問いかけましたが、答えや想像はできませんでした。

最初の頃、バンコクで生まれてしばらく東京に住んでいた私にとって、やはり、秋田はとても不便です。人見知りの私にとって知り合いがゼロからスタートする環境がとてもつらかったです。周りには日本人だけでなく、イスラム教徒の国の人もいます。他の国の文化のことがよく分からないから、遠慮ばかりして自分らしくできずなかなか溶け込めなくて、人と一緒にいてもスマホをいじってばかりいる日々が続いていました。

しかし、時間とともに、出会った留学生や支えてくれる学校の先生と近所の人などのおかげで、今は毎日とても楽しいです。秋田高専の寮生活を通し、他学科の人やヨーロッパからの留学生に触れ合い、自分の中が変わって外交的になって、積極的に様々な行事に参加するようになりました。秋田は人口密度の少ない県だから、秋田県民はやたらに人と仲よくなるうとするよりも、少なくいる仲間を大事にする傾向があると思いました。私は今クラスの友達と仲がよくなっていて、学校の近所で義理のおばあさんができ、ここはもう私の第二の故郷と感じました。

ご存知のとおり、秋田はお祭りがとても多い県の一つです。お祭りは能代の「おなごりフェスティバルin能代」や男鹿市の「なまはげ柴灯まつり」、秋田市の「秋田竿燈まつり」と「土崎港曳山まつり」、湯沢市の「犬っこまつり」、横手の「横手かまくら」、仙北市の「角館のお祭り」などです。それで、一年中新しい発見ができ、ずっと楽しめます。そし

て、同じ場所でも季節によって景色がまったく違って常に見飽かせることができます。秋田の観光地を極めるには数年間かかると思います。私はそろそろ秋田高専を卒業して、県外へ引越しますが、また季節ごとに秋田に戻って来ていろいろ見たいなと思います。

素晴らしい観光地に加えて、秋田地域留学生等交流推進会議（秋田大学国際課）が「第3の故郷を見つける農家民泊」を、秋田県国際交流協会が「あきた国際フェスティバル」と「国際交流クリスマスパーティー」を、秋田ユネスコ協会が「外国人によるスピーチコンテスト」を、男鹿市国際交流協会が「あきたべん弁論大会」を、国際交流オープンクラス（伊藤晴美先生）が「私の国・あなたの国の食文化シリーズ」を提供してくれたことによって、私は前向きに、年齢層が幅広く、職業も異なった様々な人たちと交流し、楽しくコミュニケーションを取って、それらの行事に取り組んで3年間も留学生活の中で挑戦して楽しむことができました。

そのように体験させてもらったことで、私の心は大きく変わりました。周りのことにもっと関心を持ち、周りの人たちにもっと感謝をし、支えてくれた人をもっと感動させたいと思います。秋田のおかげで私はより身近にある幸せを感じるようになりました。どのように秋田へ恩返しすればいいか分からないほど、「ありがとう」という気持ちがたくさんあります。

気がついたら、秋田における生活は「留学生活」ではなくなり、もう「暮らし」です。

今思えば、本当に私は秋田を選んだのではなくて、むしろ秋田は、私を選んでくれました。秋田は私に思いがけないことを体験させ、様々な人に出会わせ、私の人生を変えてくれました。それは私が「俺は秋田で成長した」とはっきり言えるほどです。

最後に、秋田！本当に3年間お世話になりました。ありがとうございました。いつも感謝しております。





私の第二故郷－秋田

秋田大学
工学資源学部環境応用化学科3年

ホアンティースーン (ベトナム)

あっという間に日出づる国と命名される日本での留学生活が4年経ちました。今振り返ると喜びもあり、涙もあり、人生の大切な4年間になりました。

家族を離れ、日本に来たばかりの頃、日本語でうまく話せなくて大変だった日々。そんな私に対し同感してくれる友人が沢山できました。そして、いつも応援してくださった先生方やいろいろ支えてくれたボランティアの先生のおかげで、日本に少しずつ慣れ、自分も少しずつ成長していくことができました。

来日する前の日本に対する印象は経済が発展し、先進的な技術を持つ世界のトップリーダーで、素晴らしい国だと感じました。それに加え、秋田に来て初めて雪を見ることができました。真っ白で美しく、やっと触れたと心の中で大変喜んでいました。そして毎年訪れる春の美しい桜、夏の華やかな花火、秋のきれいな紅葉、冬の美しい雪を楽しむことができました。4年間で日本のことが好きになり、日本の美しさも感じるようになりました。

秋田に初めて来た時、自然に囲まれ、静かで住みやすいところだという印象を受けました。大学で勉強しながらアルバイトをする内に、沢山の出会いができました。時間が経つにつれ、多くの人と親しくなりました。美しい自然に加え、親切で優しい秋田の人々が大好きになってしまいました。秋田には私の大好きな秋田大学があります。そこにいろいろ支えてくれた先生方がいて、沢山の仲間がいます。また秋田では人生で初めて体験したことが沢山あり、沢山のいい思い出ができました。その中でも忘れられない思い出は農村民宿に参加し、初めて2日間で県内の他の大学から来た学生さんと一緒に野菜の収穫をしたり、一緒にご飯を作って食べたりしたことです。また秋田での留学生活で学んだことが数えられないほどたくさんあります。日本人のマナーと礼儀正しさ、最高のサービス、異文化の理解や交流などはとても大切な教訓になりました。

秋田に来てもうすぐ3年になります。今年の冬も3回目の冬になります。寒さにはなかなか慣れてきませんが、毎年の雪を見るのを楽しみにしています。そしていつからか分かりませんが、私にとって日本または秋田は人生の大切な第二故郷になりました。

秋田が大好きです！！





異文化に学ぶ

国際教養大学
国際教養学部 4年

大江 彩水 (日本)

馴染みのない方言を読み取る難しさ、色とりどりのスキーウエアと長靴で通学する小学生…。私は西日本出身ですが、秋田に来て身近な異文化に気づきました。それは環境から生まれる発想、知恵が習慣化したものだと思います。また異文化理解とは他者のバックグラウンドに思いを及ぼせることであり、地理的・歴史的に限定されるべきものでもないと思います。

国際教養大のカリキュラムは1年間の留学を含み、創立から10年来、私たちは世界各国の大学に籍を置いています。南米留学は私が初で、希望したきっかけは高校での米国留学でした。プエルトリコ出身のホストファミリーに教わったスペイン語、彼らの陽気さ、温かさ、生活に根差した音楽、ダンス…それらに魅了された私は「留学するなら中南米スペイン語圏」と決めていたのです。提携大学との調整に関する進捗状況を担当の方に毎日お尋ねしましたが、晴れてペルーに行けることが決まった時は感無量でした。

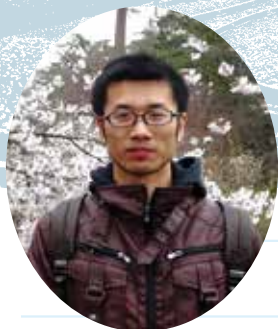
ただし現地での生活は波乱万丈でした。ある留学生はあえて希望するはずない夜学講座に機械的に登録され、深夜の帰宅で危ない目にあったそうです。「留学生担当なら一応確認してくれるはず」という慣れ親しんだ希望的憶測など通用しない自己責任社会…。授業で学んだハイ/ロー・コンテキスト・カルチャーを感じました。若者の音楽レゲトンが大音量で響き、乗客も勝手に音楽を流す、エンジンが故障したら降ろされる…定期券の発行はなく、日によって高額請求される時は車掌と言いつつ…それが路線バスです。タクシーでは乗車前に料金を交渉し、乗車中は行き先がおかし

くないか警戒しました。偽札は多く出回り、つかまされると次に使えないなど、まるでババ抜きジョーカーです。特にリマでは隙を見せないよう警戒し、ペルー人以上にペルー人であるよう努めました。野犬が徘徊し八工が群がる市場で、羽を抜かれた鶏を丸ごと買い、さばき方、頭部からの出汁の取り方を現地の人に教わりました。これらは暮らして初めて理解できる生活だと思います。

グローバル化の波は衰えることなく、衣食住を初め、国内で事足りることはもはやないと言えるかも知れません。他者の立場に立ち自分を見つめ、両者を比較し理解しようとする姿勢は、この世に様々な生活様式があること、そこから生まれる考え方が多様であることに気づかせてくれます。

グローバル化がもたらすものが障壁でなく、幸せであるようにすることが私たちの世代の挑戦です。





日本での就職

秋田県立大学
機械知能システム学専攻修士2年

朱 泰林 (中国)

私が日本に来たのは2010年の4月ごろでした。私は日本文化に憧れがあり、若いうちに直接日本に来てみたかったからです。しかし、新しい環境で生活することは、ワクワクした気持ちがある反面、不安もたくさんありました。

来日後、私は日本語学校で日本語を勉強しました。その時に教わった日本語学校の先生は優しく、いつも私達留学生を応援してくれたので、私は日本人の面倒見の良さと優しさに感動して日本での留学生生活を頑張るようになってきました。

日本語学校に通いながら、アルバイトもしました。バイトを通じて、生きる日本語を学ぶことができ、生活費の一部の助けになりました。同時に日本人の仕事に対する真面目さと責任感を肌で感じるようになり、彼らに対して良い印象を覚えました。

2年間の日本語学校での勉強生活を終えて、秋田県立大学大学院に進学しました。それから幸運にも修士課程1年の時に、国際ロータリーの奨学生に採用され、秋田の経済を支える方々と接するようになりました。奨学金のおかげで、私は日本での留学生生活を順調に送ることができ、より日本の社会・文化を学ぶことができました。

今年の3月に修士課程を終了する予定です。留学経験を活かし、日本で働きたいという願望をもちました。周りの日本人学生と一緒に就職活動を行った結果、海外にも多数拠点をもつ自動化技術・サービスメーカーである株式会社三共製作所から内定を頂きました。

振り返ってみると、日本で留学するのは、確かにいろんな困難があり、大変かもしれませんが、しかし昔の中国のことわざには「困難はお金を出して買えない物」というものがあります。留学生生活を大事にし、将来はこれが自分の人生の中で、宝物になることと信じ、頑張ることで困難を乗り越えることが大事です。ひとりの学生として、勉強をメインにするのは当たり前ですが、学業以外で積極的に日本人と交流することは、自分の語学力を高めるほか、日本人の考え方や価値観も理解し、自分の視野を広げることができるので、良い経験になると思います。

日本で就職することは留学生にとって難しいという先入観を持っている方が多いかもしれませんが、実際にグローバル化が進んでいる中、留学生人材を求む企業も多くいます。言葉の壁を越えて、日本の文化を尊重し、周りときちんとコミュニケーションをとれるのであれば、きっとチャンスがやってくると思います。



第三の故郷を見つける農家民泊2014

秋田地域留学生等交流推進会議では、秋田県仙北市西木町において六度目となる農家民泊事業を実施しました。昨年に引き続き「第三の故郷を見つける農家民泊」と題し、秋田県内の留学生や日本人学生が地域農家の方々とグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。

本事業では、二回の農業体験プログラム（農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー）を実施しました。10月4日、5日の農業体験ツアーでは、各農家に分かれて農作業と民泊をしました。農作業では、栗拾い、里芋掘り、稲刈り、薪割り、トラクターの運転体験などを行い、留学生だけでなく日本人学生にとっても貴重な体験になったようです。料理作りでは、きりたんぼやゆべしの他、様々な料理作りを手伝いました。地元で取れる食材を活かした秋田の伝統料理に感動し、美味しくいただきました。その他の活動では、三味線や着物の着付けなど日本文化を体験するものがありました。留学生は自分の国についてグループメンバーや農家の方々に紹介し、交流を深めていました。二日目は、農家さんと学生が作った海苔巻きやお握りなどのお弁当を持ち寄り、桧木内川河川公園で交流会を開きました。自分たちで作った料理を味わい、また、他のグループにも自分たちの料理を分け合い、心温まる交流が続きました。その後、2日間の体験を振り返り、自分たちの体験を英語と日本

語で発表しました。

11月2日の収穫感謝祭ツアーでは、10月と同じグループメンバーで再会しました。餅つき体験、米粉を使った饅頭作り、アルバム作成を行いました。餅つきは、参加者のほとんどが初めての経験でしたが、杵の重さに驚きながらも、餅を返す農家の方々とタイミングを合わせ、精一杯振り下ろしていました。ふっくらとつきあがったお餅はあんこ餅やごま餅、雑煮にされ、初めて餅を食べる参加者もいたようですが、どれも美味しいと喜んでいました。アルバムは、農業体験ツアーの写真を用いて心を込めて作成し、お世話になった農家さんへプレゼントしました。アルバム作りを通して10月の体験を学生それぞれが振り返り、宿泊先の農家さんにアルバムをプレゼントしお互いの思いを伝え合うことで、より思い出が深くなったように感じました。帰り際はそれぞれ再会することを約束し、どのグループも農家の方々と別れを惜しみ、とても名残惜しいものでした。

アンケートには、体験の感想とともに農家さんへの感謝の気持ちが数多く書かれていました。参加者からは「また参加したい」という声や、また、農家の方々からも「来年もぜひ来て下さい」という声が寄せられ、この事業が双方にとって有意義で満足するものであったことがうかがえました。



農家さんへアルバム贈呈



トラクター運転に挑戦



きりたんぼ作り



餅つき

あきたのファミリー

■ (公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

公益財団法人秋田県国際交流協会は、「多文化共生社会の推進」、「民間団体等の活動の活性化」、「国際化の情報や機会の提供」を3つの柱とし、これらを達成するため様々な事業を実施しています。その中で、留学生を対象とした「あきたのファミリー」事業を紹介します。

この事業は、文化の違いについて外国人留学生と県民の相互理解を深めることを目的に、県内の大学に在籍する留学生にホストファミリーを紹介し、交流を行っていただく事業として平成18年度から実施しています。留学生には、地域の一般家庭との交流を通じて日本や秋田の習慣、文化などの理解を深めてもらいます。また、ホストファミリーには、この事業で出会う留学生を通じて出身国のことなどを知り、異文化を体験してもらいます。

当初は春と秋、年2回の募集としていましたが、ファミリーと交流したいという学生の要望に応じ、平成24年度からは通年募集としています。これにより、学生は交流を始めたいと思

う自由なタイミングで申し込むことが可能となりました。2014年12月末日現在のファミリーと留学生のマッチング数は27組でした。ファミリーからも学生からも、楽しく交流を進めていると感想をいただいております。

ファミリーと留学生のさらなる交流、そしてファミリー同士の交流や意見交換などを目的に、12月6日にクリスマス交流会を開催しました。当日は、秋田大学の留学生や県在住外国人の皆さん、秋田市をはじめ県内各地からたくさんの方にご来場いただき、ハンドベル演奏やクイズ大会、「人間ビンゴ」等で大いに盛り上がった会となりました。数字の代わりに人の名前を使ってビンゴを作る人間ビンゴでは、言葉の壁を超え、参加者の皆さんそれぞれが積極的に交流を図られていました。

秋田県国際交流協会は、県民と外国出身者の両方が住みやすい「多文化共生社会」を構築するため、これからも各種事業を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。



ハンドinハンド・手と手をつなぐ

～国を越え、世代を越え～

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

わびえにおける国際交流活動には奨学プランと地区が中心となって実施している活動がある。わびえ奨学プランは1992年度より秋田で学ぶ留学生や研修生を支援する事業の一つで、私費の外国人女子学生を対象に図書費（月額5,000円）として1年間支給するもので現在まで継続している。2014年度は秋田大学（ベトナム出身学生1名）、秋田県立大学本荘キャンパス（中国出身院生1名）、国際教養大学（ベトナム出身院生1名）の女子学生3名に支給した。そのあと、会員と奨学生がグループに分かれ「世界の食卓」の1枚の絵からどこの国か、を当てるクイズに挑戦し、その国の理解を深めた。

横手・湯沢地区では7月7日の七夕の日に住住外国人を招き、書道を学び短冊に願いを書き笹竹に飾り、伝統文化を体験しながら交流を深めた。

大仙・仙北地区では在住外国人を招きグランドゴルフで交流した。日本に来てはじめて母国の人に出会ったという人もおり、お互いに近況を話しあいプレーを楽しんだ。ゲームの終了後、

賞品としてTシャツや靴下などの日用品をわびえ会員が贈り喜ばれた。

秋田地区で毎年開催し好評の「ハンドinハンドさよなら2014」には秋田大学、秋田県立大学本荘キャンパス、秋田高専の留学生38名が参加した。会員19名の参加に対し2倍の留学生が参加し、世界遺産カルタでは熱気あふれるカルタ取りとなった。スピーチコーナーでも次々とスピーチをする学生が多く時間切れとなってしまった。また会員が景品を持ち寄ったビンゴゲームも好評だった。参加者が多かったのは学校側の担当者の方々のご協力によるもので、主催者として感謝している。国を越え、世代を越えて友情も深まり有意義な交流ができた。

その他の活動として、会員有志によるNHK歳末海外助け合いへの募金や「幼い難民を考える会」への支援も引き続き行っている。

今後の活動として3月には大仙・仙北・由利本荘地区ではひな祭り交流会の開催を予定している。



UNESCO・New Year Festa 2015 歌でつながる世界

■ 秋田ユネスコ協会

秋田ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の精神に賛同して世界の平和に貢献することを目的に、途上国の教育支援、県内在住の外国人と県民の交流、相互理解の推進などの活動を実施している。

2014年度は、4月の総会、7月の東日本大震災の被災地の子どもたちの「学び」を支援する募金活動、高校生を対象に「平和・国際交流について考えよう」をテーマにしたユースセミナー、11月には外国人による日本語スピーチ・コンテストを実施した。さらに、1月にはニューイヤーフェスタ2015「歌でつながる世界」を開催した。この後アフガニスタンの教育支援のための書き損じハガキ回収キャンペーンを実施する。



ユネスコニューイヤーフェスタ2015「歌でつながる世界」は、歌を通して国際交流をはかることを目的に今回初めて実施した。日本でよく歌われている世界の民謡を、その国の人から歌の意味やどんな時に歌われるかについて話してもらい、さらに原語で歌って頂く、続いて参加者全員で日本語で歌うという趣向である。

「トロイカ」「カチューシャ」などのロシア民謡は手拍子を取りながら歌い、「聖者の行進」「峠

のわが家」などのアメリカ民謡は全員で英語で歌った。インドネシア民謡は原語と日本語がうまく合わないなどのハプニングがあったが、インドネシア出身の留学生が原語で歌う「ブンガワンソロ」「ラササヤン」は味わい深かった。イギリス民謡は「故郷の空」「蛍の光」共に原語と異なる意味の日本語で歌われており、どこでそうなったのか不思議に思った。

日本にすっかり馴染み、日本の歌と思っていたもののオリジナルが思いがけない国だったとい発見もあった。外国人も日本人も大きな声で一緒に歌うと心が開放され、歌そのものの持つ力を実感した。



この後はお茶とお菓子で交流タイム。外国人を囲んでいくつかの輪ができ、歌のこと、秋田での生活など、和やかに話し合いを楽しんだ。

2015年は戦後70年という節目の年。平和な世界の実現に向けて、小さいながらもさらに活動を積み重ねていきたいと思う。

毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

秋田県日中友好協会では、毎年留学生や技術研修員等との様々な交流事業を実施しております。

秋田地区日中と県日中女性委員会では、毎年共同で中国留学生秋田地区学友会の会員を招いて友好交流事業として4事業を実施しています。

4月は、「お花見会」を実施していますが、今年は秋田市の一つ森公園で満開の桜の下、留学生及び協会会員合わせて約70名が参加しバーベキューパーティーを実施しました。

7月には、比較的内陸出身者の多い留学生のため、潟上市の出戸浜海水浴場で「海に親しむ会」を開催。協会会員や留学生等約50名が参加し、海水浴やスイカ割りなどに歓声を上げ、昼には汗をかきかき焼肉に舌鼓を打ちました。

10月は、中国の建国記念日である「国慶節を祝う会」を秋田市内のホテルで開催、ゲストによる歌やギターの演奏、ビンゴゲームやカラオケなどを行い、約80名の参加者が楽しく交流しました。

今年1月末には中国の新年（暦の元旦に合わせ

て実施）を祝う「春節を祝う会」を市内ホテルで予定しています。

秋田地区協会以外でも各地区協会でも活発に交流事業が行われています。7月には能代市日中友好協会「浜辺交流会」、にかほ市日中友好協会では「西施まつり」、9月には横手市日中友好協会「ぶどう狩り」を行い、技術研修員や会員・市民などとの交流が行われています。

また、9月には県日中女性委員会で日本の伝統文化である茶道を体験する「浴衣茶会」を、会員宅の茶室をお借りして実施したほか、10月には県日中と女性委員会、学友会の3団体がアトリオンで開かれた「国際フェスティバル」に並んでブースを開設、それぞれの活動紹介やバザー、中国の紹介などを行いました。

私たちは、遠く国を離れて秋田で暮らす中国人を温かく迎え、市民レベルでの交流事業を進め、日中両国の友好関係が信頼の上で築かれるよう、今後とも長く友好交流事業を実施していきます。



協会設立10周年モンゴルの魅力を発信

■ 秋田モンゴル友好協会

秋田モンゴル友好協会は、秋田県内に居住しているモンゴル人との交流を通じて、日本とモンゴル両国の文化を理解し、友好親善の促進を図ることを目的に、10年前に発足しました。その間、協会の交流事業として、3度（2006・2011・2013年）のモンゴル訪問団を結成し親善に努めてきました。

またモンゴルからも、由利本荘市に23名の高校生を（2008年）、湯沢市には12名の農林業指導者の研修を受け入れ（2009年）それぞれ民宿することにより意義深い友好の促進となっています。

発足当時は、国際教養大学への、交換留学生が10名ほどでしたが、現在は、秋田大学、国際教養大学、県立大学および秋田高専への留学生・研究生がその家族を含め、30名になっています。また国際教養大学からは、毎年1名が交換留学生としてモンゴル国立大学に留学しています。

2014年6月には、協会設立10周年の記念事業として、劇団文化座（佐々木愛代表）のモンゴルの民話「スーホーと白い馬」をテーマにした朗読劇「少年と白い馬」を後援し、秋田県内10か所で公演、いずれの会場も満席状態で成功裏に終わりました。公演は、佐々木愛さんが朗読、モンゴル国立民族歌舞団の馬頭琴などモンゴル楽器の演奏と、モンゴル独特の歌唱法ホーミーの歌声でモンゴルの雰囲気を出し、広く県民にモンゴルの魅力を発信してくれました。また公演には県内在住のモンゴル人を招待し、団員との交流の場も設けました。

モンゴル人は、自国の文化を発信することに熱心で、モンゴル伝統の野外料理、羊1頭を蒸し焼きにする「ホルホグ」や、「ホーショール」という揚げ餃子を味わう会を主催したり、他団体主催の国際交流行事に積極的に参加しモンゴルの魅力を伝えてくれています。



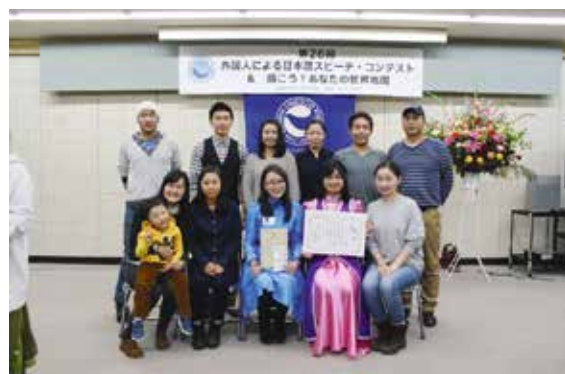
楽団員との記念写真



ホーショールを作る



ホルホグを作る



スピーチコンテスト応援

国際交流のより大きな輪

国際交流オープンクラス

「国際交流オープンクラス」は、草の根のボランティア活動グループです。

「オープンでひらかれていること」「アット・ホームであること」をグループのモットーにしながら、楽しく異文化交流・国際交流を行っています。

秋田在住の外国の人たちの「自国のことを秋田の人にもっと知って欲しい」「日本の人と友だちになりたい」「秋田のこと知りたい」

「日本語を話せる場が欲しい」「秋田弁を覚えたい」「巻きずしやみそ汁の作り方を習いたい」などの思いに応え、1990年9月から活動をはじめ25年目になります。

26年度は、10月、県の国際交流フェスティバルに秋田高専の留学生と共に参加。11月、中央男女共同参画センターのハーモニープラザまつりで多くの市民と交流。12月<文化シリーズ>では「わらび座」で【げんない】鑑賞。2月は<私の国・あなたの国シリーズ>で留学生からそれぞれの国の紹介してもらう予定です。3月には<食文化シリーズ>でマレーシアのカレー料理教室を開催予定です。

これからも、秋田工業高等専門学校留学生たちとともに、国際交流の輪を広げていきたいと思っています。

(代表 伊藤晴美)



留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校

【秋田高専留学生の活動紹介】

本校は、平成3年度に最初の留学生を受け入れ、これまで多くの留学生が秋田高専を巣立っていきました。入学してきた留学生に対し、1年間の日本語教育（週6時間）の実施、チューター、留学生指導教員の配置など、きめ細かな留学生教育を行っています。

○第三の故郷を見つける農家民泊

秋田地域留学生等交流推進会議が主催するもので、平成26年度は3名の留学生が参加しました。

○外国人による日本語スピーチコンテスト

秋田ユネスコ協会が主催するもので、平成26年度は最優秀賞を1名、奨励賞を3名が受賞しました。

○学校の枠を越えた外国人留学生研修（秋田開催）

東北地区高専が合同で実施するもので、平成26年度は一関高専が幹事校として実施されました。



秋田県立大学

【大学の取組み】

秋田県立大学では、留学生たちは日本学生と一緒に国際交流サークルを立ち上げ、年間を通してさまざまなイベントに参加し、地域との交流を深めています。



ノースアジア大学

【交換留生活動紹介】

ノースアジア大学では、現在台湾の真理大学、韓国の培材大学から交換留学生を受け入れています。留学生は経済学科・観光学科に所属し、日々日本語能力の向上のみならず経済・観光の勉学に励んでいます。

また、学園内の学生交流プログラムなどにも積極的に参加し、充実した留学生生活を送っています。

（ノースアジア大学HP <http://www.nau.ac.jp/>）



国際教養大学

【Meet the People in Akita】

国際教養大学では、これまで県内6市町一八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市・美郷町・仙北市一と異文化交流に関する協定を結び、留学生の派遣、児童・生徒の大学訪問の受け入れなど、双方向の交流を行っています。これらの自治体を通じた交流の他にも、クリスマスや節分などのイベントでの就学前児童との交流、小・中学校との英語活動や異文化理解を中心とした交流、地域の農作業や伝統行事を体験させていただきながらの地域の方々との交流なども行っています。今後も、留学生にとって秋田での留學生活が実り多いものになるよう、さらには地域とともに歩んでいけるよう、積極的に交流活動を展開していきます。(国際教養大学HP：<http://web.aiu.ac.jp>)



地域の運動会への参加



中学生との交流

秋田大学

【留学生等交流実地見学旅行】

留学生等の日本文化に対する理解を深めるとともに、留学生等同士の間での交流を図るため、7月5日・6日の1泊2日の日程で、本学の外国人留学生19名が参加し県北・仙北地域を中心に留学生等交流実地見学旅行を実施しました。

【日本のもちつき】

もちつきやお供え作りなどを体験してもらい、日本の伝統文化に触れるとともに地域のみなさんとの交流を深めることを目的として行っており、毎年年末の恒例行事です。

この他、スキー研修や農家民泊、留学生とランチなどの行事を実施しています。秋田大学国際交流センターホームページのEVENT REPORTでは実施行事を掲載していますので是非ご覧ください。
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>



平成26年度 国際交流事業の実施状況

地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書は、 参加留学生数	事業の内容	
1	甘肅省技術研修員受入事業	秋田県	H26.9～ H26.12	1(1)	中国・甘肅省から研修員を受け入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行う。	
2	南米ネットワーク構築事業		H26.9～ H26.12	1(1)	在南米秋田県人会の推薦を受けた人材を研修員として受け入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行い、県人会の後継者として育成する。また、県民との交流活動を実施することで地域の国際化を促す。	
3	中国天津市友好交流事業		平成27年度に延期	-	中国天津市から高校生の訪問団を受け入れ県内高校生とスポーツ・文化活動等の交流を実施する。	
4	ロシア専門家受入事業		H27.1～ H27.2	3	友好協定を締結しているロシア沿海地方から医療分野の専門家を受け入れ、県内専門機関での研修を行う。	
5	ロシア青少年交流事業		H26.7.19～ H26.7.29	6(5)	県内高校生をロシア沿海地方ウラジオストクにある第51高校に派遣し、現地の高校生との友好交流を実施する。	
6	ロシア極東地域交流拡大調査事業		H26.8.18～ H26.8.24	4(1)	ロシア極東地域とのこれまでの交流実績をふまえ、さらなる交流拡大を図るため、27年度の訪問団派遣を見据え、イルクーツク州及びハバロフスク地方を訪問し、交流の可能性などについて調査する。	
7	ロシア・韓国訪問団派遣事業		H26.11.10～ H26.11.15	13(1)	知事を団長とする訪問団をロシア及び韓国に派遣し、ロシア極東においては、友好関係にある沿海地方行政及びハバロフスク地方政府等を訪問するとともに、韓国ソウル市においては、ソウル便の継続運航に関する大韓航空への要請や、コンテナ航路の維持・拡充のため秋田港に就航中の船会社への訪問を行い、今後の交流拡大を図る。	
8	あきたのファミリー	公益財団法人 秋田県国際 交流協会	通年	25組	ホストファミリーとなる家族を募集し、交流を希望する留学生とのマッチングを行う。	
9	あきた国際フェスティバル2014		H26.10.18～ H26.10.19	約8,000人	在住外国人や国際交流団体による活動紹介やステージパフォーマンスを行う。	
10	国際交流クリスマスパーティー		H26.12.6	82	世界の風習をクイズで楽しく学んだり、人間ビンゴゲームにより留学生等の在住外国人の方と県民との交流を行う。	
11	にほんごでおはなし		通年	14組	在住外国人と日本語でコミュニケーションをするボランティアを募り、マッチングを行う。	
12	異文化理解講座 (映画HAFU(ハーフ)上映会)		H26.5.31	125	HAFUの方々のドキュメンタリー映画の上映を通して、様々な文化的背景を持つ在住外国人とその家族への理解を深める。	
13	異文化理解講座 (ハラール食/イスラム文化について)		H27.1.24	58	ハラール食をテーマとした講演、ムスリム留学生によるトークディスカッション、ハラール食試食を通して、ハラール食及びイスラム文化への理解を深める。	
14	(秋田県受託事業) ロシア青少年交流事業		H26.7.19～ H26.7.26	11	県内の高校生6名をロシア沿海地方に派遣し、現地の高校生等と交流を行い、相互理解を深める。	
15	(秋田県受託事業) 甘肅省技術研修員等受入事業		H26.9～ H26.12	1	秋田県と友好関係にある甘肅省より技術研修員を受け入れ、秋田県内で様々な研修を行うことにより、帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。	
16	(秋田県受託事業) 南米ネットワーク構築事業		H26.9～ H26.12	1	秋田県から南米に移住した移民による秋田県人会より研修員を受け入れ、県人会の後継者を育成する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。	
17	(秋田県受託事業) ロシア専門家受入事業		H27.1～ H27.2	3	ロシア沿海地方より、医療分野等の専門家を受入れし、県内の専門機関で研修を行う。	
18	秋田市日本語教室		秋田市	毎週木曜日 (年間38回予定)	351(92)	市が公募した日本語講師で構成される秋田市日本語教室と共催で、在住外国人向けに日本語教室を開催する。
19	キナイ半島郡バレーボールチーム および市民交流団受入事業			H26.8.1～ H26.8.6	86(1)	交流合意都市の米国・アラスカ州キナイ半島郡から高校生バレーボールチームおよび市民交流団を受け入れ、市内高校のバレーボール部等との交流を通じ、両市民間の友好交流を促進した。
20	パッサウ市市民交流団受入事業			H26.10.23～ H26.10.26	103	姉妹都市のドイツ・パッサウ市から市民交流団(24名)を受け入れ、本市において、姉妹都市提携30周年式典および祝賀会を挙行政した。
21	パッサウ音楽家本市公演事業			H26.11.1～ H26.11.5	650	姉妹都市のドイツ・パッサウ市から音楽家(3名)を招へし、提携30周年記念コンサートへ市民約700人を無料招待した。また、国民文化祭のオルガンフェスティバルへもゲスト出演(1名)した。
22	蘭州市研修員受入事業			H26.10.14～ H26.12.12	4	姉妹都市の中国・蘭州市から医師2名および教員2名を受け入れ、2か月の研修を行った。
23	国際理解推進講座			H26.8.3	50	交流合意都市の米国・アラスカ州キナイ半島郡のフィットネス講師を招き、市民無料のフィットネス講座を開催した。
24	日本語教室		藤里町国際 交流協会	毎月2回開催 (水曜日)	70	町内に在住の外国人に対して日本語教室を実施。
25	中学生海外研修	大館市	3月下旬 7泊8日(予定)	15	大館市内の中学生による海外研修ホームステイや学校での交流など	
26	日本語教室		毎週月・水曜日 (2時間)	16	月曜日は17:30～19:30、水曜日は10:00～12:00 大館市在住の外国人を対象とした日本語教室	
27	日本語講座	能代市	H26.4～ H27.3	1,800	市内在住の外国出身者が、日常生活に必要な日本語の会話及び読み書き、日本や地域の文化を学ぶ 火曜日:19:00～21:00 木曜日:10:00～12:00	
28	日本語指導ボランティア養成講座		H26.4～ H27.3	300	日本語指導法の基礎を学ぶ	
29	ふれあい交流事業		H26.4～ H27.3	350	盆踊り会、お茶会などを通じて、市民と日本語講座参加者の交流を行う	
30	外国語指導助手(ALT)派遣事業		H26.4～ H27.3	2	国際化の進展に対応するため、外国青年(外国語指導助手)を派遣し、能代市における英語教育及び国際理解教育の充実を図る	
31	月例研修会	にかほ市日 中友好協会	年4回	各回15名 程度	国籍を問わず活躍されている方を講師として開催する研修会。各回異なる講師をお願いし、国際交流への理解を深める。	
32	西施まつり		H26.8.3	約30	嵯峨町、象潟公民館において開催。松尾芭蕉の俳句で詠まれた中国四大美人の1人「西施(浙江省諸暨市)」を縁とした事業。	
33	アナコーテス市中学生交流受入事業	アナコーテス 交流協会	H26.8.1～ H26.8.8	16	姉妹都市ワシントン州アナコーテス市から中学生12名と引率4名の受入。ホームステイを通じて交流を行う。	
34	国際料理交流会		H27.2	約60	秋田県在住の外国人を講師とした料理交流会。	

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
35	ショウニー市中学生交流受入事業	ショウニー 交流協会	H26.7.31～ H26.8.6	10	姉妹都市オクラホマ州ショウニー市から中学生8名と引率2名の受入。ホームステイを通じて交流を行う。
36	ショウニー市中学生交流派遣事業		見合わせ	17	にかほ市在住の中学生14名と引率3名が姉妹都市であるオクラホマ州ショウニー市を訪問し、ホームステイを通じて交流を行う。
37	国際交流展	にかほ市国際 交流協会	H26.9.13～ H26.9.15	会場来場 予定約 6,000名	市文化祭会場において、市内各国国際交流協会が交流について事業紹介の展示を行う。
38	国際教養大学交流事業	大仙市	H26.5.16～ H26.2.17	3368 (271) ※予定含	大仙市内の幼稚園・保育園児、小学校児童、中学生生徒が国際教養大学の留学生とさまざまな交流(来校・来園及び大学訪問)を行う。生徒たちは留学生を通して、直接異文化に触れる体験ができ、また、互いに異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養うことができる。
39			H26.8.4～ H26.8.7	10	両国の文化や習慣を体験し、広い視野や異文化を理解するため青少年交流を行う。(H26大仙市受入)
40			H26.8.22～ H26.8.25	4	両自治体の友好交流都市間の国際親善をととした協力関係を継続するため、大仙市の代名詞である「大曲の花火」の開催に合わせて唐津市長を招聘して、大仙市の文化に触れることを通じて相互理解を深める。(唐津市副市長他3名来訪)
41	韓国唐津市青少年交流事業	大仙市	H27.3.23～ H27.3.26	5	友好交流都市韓国唐津市を訪問し、今後の両自治体間の交流内容について協議を行う(予定)。
42	韓国唐津市市長招聘事業		H26.5.16～ H26.7.16(随時)	282	大仙市韓国国際交流員による市民対象の韓国文化に関する出前講座を開催。
43	大仙市長韓国唐津市訪問事業		H26.7.24～ H26.7.31	5	韓国LABOが主催するキャンプやホームステイに参加し、日本と韓国の歴史・文化・生活習慣の違いなどを体験する。
44	韓国国際交流員による出前講座	大仙市国際 交流協会	H27.1.22～ H27.1.26	10	韓国LABOから派遣される青少年が大仙市を訪問し、ホームステイや日本文化体験、スキー体験などを行う。
45	韓国LABO青少年受入事業		H27.3.8(予定)	未定	在住の外国人や国際交流・協力を行っている団体などと一緒にはイオン大曲を会場にステージパフォーマンスやブース展示などを行う。
46	国際フェスティバル in 大仙		通年	955 (65)	男鹿市内の小・中学が国際教養大学の留学生との交流を通じて、外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。交流会、英会話教室、国際教養大学訪問
47	国際教養大学との交流事業	男鹿市	通年	3	英語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。
48	外国語助手招致事業		月2～3回程度(土 曜日)年間24回程 度開催 予定	220	在住外国人の方を対象に日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等を学ぶ。
49	日本語教室	由利本荘市	H26.4.19～ H26.4.20	25	友好交流都市である中国・無錫市より外事弁公室主任を団長とする7名の訪問団が来市し、市内視察や日本文化体験を通じて交流を図った。
50	中国・無錫市訪問団受入事業		H26.7.22～ H26.7.29	24	友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市より副市長を団長とする公式訪問団3名が来市し、市内視察や日本文化体験を通じて交流を図った。
51	ハンガリー・ヴァーツ市公式訪問団受入事業		H26.7.30～ H26.8.7	72	友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市より、18名の青少年友好交流訪問団(学生15名、引率3名)が来市し、市内在住の中高生宅にホームステイをしながら、市内視察や日本文化体験を行い、相互交流を図った。
52	ハンガリー・ヴァーツ市青少年友好交流訪問団受入事業	由利本荘市 (公財)由利本 荘青年会議所	H26.7.29～8.2 H26.8.22～8.25		ハンガリー・ヴァーツ市、中国・無錫市、ベルギー・ブリュージュの児童の絵画を展示した。(公財)由利本荘青年会議所が主催する日韓児童交流絵画コンテストと共同開催し、韓国・梁山市、にかほ市、由利本荘市の児童の絵画も併せて展示した。
53	国際・日韓児童絵画交流展	由利本荘市	H26.10.20～ H26.10.23	3	中国・無錫市で開催される国際友好都市交流会に市幹部職員を含む3名が出席した。
54	中国・無錫市国際友好都市交流訪問団派遣事業		H26.11.18	11	友好都市である韓国・梁山市より梁山市長を団長とする11名の訪問団が来市し、市内視察を行った。
55	韓国・梁山市訪問団受入事業	横手市(男女共 同参加・市民協 働推進室)	通年	440	在住外国人向けの日本語教室 金曜日の10時から12時、10名程度/年44回
56	日本語教室		H26.10.11～ H26.10.13	50 (10)	明海大学(千葉県浦安市)に通う留学生が横手市にホームステイし、各種体験を行う
57	明海大学留学生招待事業(秋の横手体験)		H27.2.14～ H27.2.16	(10)	明海大学(千葉県浦安市)に通う留学生が横手市にホームステイし、各種体験を行う
58	明海大学留学生招待事業(冬の横手体験)	横手市 (農業政策課)	H26.6.14～ H26.6.15	18 (13)	農業や農家民泊、伝統文化等の体験を通して横手の魅力を感じてもらおうもの。
59	八峰町国際交流事業	八峰町	H26.5.9	40 (5)	町内小学校AIU訪問
60			H26.5.17	15 (8)	オリエンテーション及び体験センター
61			H26.6.20	240 (8)	町内中学校での授業(英語・総合)
62			H26.6.21	15 (9)	ホームステイ・シーカヤック体験
63			H26.7.11	350 (9)	町内各小中学校での授業(英語・総合)
64			H26.7.12	50 (9)	ホームステイ・子ども園の園児と交流 白瀑神社と松源院で座禅体験
65			H26.9.6	50 (8)	子ども園の園児と交流 八峰町特産の「梨狩り」を体験
66			H26.10.6	30 (5)	町内小学校AIU訪問
67			H26.10.8	45 (5)	町内小学校AIU訪問
68			H26.10.17	30 (5)	町内小学校AIU訪問
69			H26.10.17	120 (9)	小中学校での授業(英語・総合)
70			H26.10.18	50 (9)	ホームステイ・子ども園の園児と交流 老人クラブとユニカルで交流
71			H26.11.7	30 (5)	町内小学校AIU訪問
72			H26.11.14	200 (9)	町内小中学校での授業(英語・総合)
73			H26.11.15	30 (9)	ホームステイ・子ども園での交流
74			H26.12.12	300 (9)	町内小中学校での授業(英語・総合)
75			H27.1.24	30 (9)	伝統文化交流会「餅つき及び書道体験」

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容	
76	八峰町国際交流事業	八峰町	H27.2.13	150(9)	町内小中学校での授業(英語・総合)	
77			H27.2.14	50(9)	ホームステイ・町内の酒蔵見学	
78			H27.3.7	30(9)	地域住民との交流「外国のランチづくり」	
79	ハンガリー国シヨブロン市への行政訪問団派遣事業	鹿角市	H26.8.16～ H26.8.23	6	姉妹都市提携を結んでいるハンガリー国シヨブロン市へ行政訪問団を派遣し、さまざまな分野での交流の可能性について協議を行う。	
80	外国語活動充実事業		H26.4～ H27.3	2	ALT(外国語指導助手)、CIR(国際交流員)を配置し、小・中学生等の実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。	
81	日本語講座開設事業		H26.5.10～ H26.12.13	108	本市に居住している外国人を対象に日本語講座を開催。※参加申込者は13名。	
82	国際交流企画展		H27.2～ H27.3	-	ハンガリー国シヨブロン市と中国甘肅省武威市涼州区との友好交流事業について、広く市民に知ってもらうとともに、国際交流についての意識向上を図る。	
83	英会話講座	鹿角国際交流協会	H26.4.25～ H27.3.27	71	市民向け英会話講座の開催・全20回※参加申込者は10名、参加者数は12月末までの延べ人数。	
84	中国語講座		H26.4.25～ H26.12.12	47	市民向け中国語講座の開催・全14回※参加申込者は4名。	
85	ハンガリー講座		H26.11. 1 H26.11.15 H26.11.29 H26.12. 1	20	市民向けハンガリー講座の開催・全4回	
86	国際理解講座		H26.6.14	35	モンゴル国立民族歌舞団アンサンブルとの交流会。	
88	ハンガリー国シヨブロン市友好交流事業		H26.8.16～ H26.8.23	6	ハンガリー国シヨブロン市へ青少年ホームステイ訪問団を派遣し、シヨブロン市民との交流を図る。	
89			H26.4～ H27.3	24	市民とハンガリー国シヨブロン市の日本語教室生徒との文通交流。	
90	日本語学指導員派遣事業		H26.4～ H27.3	2	ハンガリー国シヨブロン市へ日本語学指導員を派遣し、シヨブロン市民を対象とした日本語教室を開催。 ※派遣期間 第7代指導員 H24.10～H26.8 第8代指導員 H26.12～H28.8	
91	国際料理教室		H26.7.13 H26.11.1 H27.3.7(予定)	29	在住外国人や第7代日本語学指導員を講師に迎え、市民向け料理教室を開催・全3回(予定)	
92	通訳BANK登録事業		H26.4～ H27.3	7	在住外国人や市内に訪れた外国人を通訳面からサポートするメンバーの募集及び登録。	
93	日本語教室開催事業		北秋田市	月に2～3回	180	生活習慣の指導・サポート、地域の行事・各種イベント等へ参加し、地域へ溶け込めるようにやさしい日本語の指導をしている。 ※参加人数については毎回若干前後する。1回の参加人数の平均は10名前後
94	仙北市台湾教育旅行誘致事業		仙北市	H26.5.24～ H26.5.25	35	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。
95	(主体:秋田県青年会館) JENESY2.0事業	H26.6.20～ H26.6.22		76	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。	
96	仙北市台湾教育旅行誘致事業	H26.7.28～ H26.7.29		16	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。	
97	JENESY2.0事業	H26.9.5～ H26.9.8		19	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。	
98	(主体:秋田県青年会館) JENESY2.0事業	H26.10.10～ H26.10.12		99	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。	
99	仙北市台湾教育旅行誘致事業	H26.12.16～ H26.12.17		31	仙北市内農家民宿に滞在。スキー体験や日本の文化体験などを行う。	
100	文化講座「藤田嗣治の見た風土と、そこに生きた人々」	秋田ユネスコ協会	H26.4.12	60	ジョイナスにて実施。藤田嗣治が戦争画を描くようになった経緯や、なぜ戦争責任を問われたのかなど、これまで余り触れられてこなかった一面について講和。	
101	ユネスコ・交流亭「和食」が無形文化遺産に!		H26.6.11	25	2013年「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたのを機に、「濱ノ家」で実際和食をいただきながら、オーナーからレクチャーを受ける。	
102	東日本大震災子ども教育支援募金		H26.7.19	25	ぼぼろ〜にて実施。会員と共に、高校生、大学生のボランティアが募金を呼びかけ、11万円余の募金が集まった。	
103	高校生のための国際理解ユースセミナー「平和・国際交流について考えよう」		H26.7.26	45	県生涯学習センターにて実施。県内31名の高校生が集まり、学びと感動を共有した。	
104	(秋田県国際交流協会主催) あきた国際フェスティバル2014		H26.10.18～ H26.10.19		AIA主催の事業に参加。世界遺産カルタ取りを実施。	
105	外国人による日本語スピーチ・コンテスト & 描こう!あなたの世界地図		H26.11.16	120(38)	ジョイナスにて実施。スピーチを通して一層の相互理解、国際交流が図られることを期待し、新しい視点を得ながら「共に生きる国際社会」の実現をみんなで考える。	
106	ニューイヤーフェスタ2015 ～歌でつながる世界～		H27.1.11	70(13)	ジョイナスにて実施。いろいろな国の歌を言語と日本語で歌いながら、国際理解、国際交流の輪を広げる。	
107	書き損じはがき回収キャンペーン		H27.1.24～ H27.1.25		ユネスコ・世界寺子屋運動の一環として、書き損じはがきの回収をぼぼろ〜にて実施。集まったハガキは現金に換え、日本ユネスコ協会連盟を通して、アフガニスタンの識字教育と生活向上プログラムの支援に使われる。	
108	ホームステイ・ホームビジット受け入れ	一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ	随時複数回	1家族 (12)	台湾(1) 中国(1) ボツワナ(1)カンボジア(1)ペルー (1)からの留学生がホームステイ又はビジットで交流	
109	定例活動にて留学生との交流		ホームステイ受け入れ時 随時	37(12)	多言語音楽に合わせてゲーム、各国語での自己紹介他	
110	春の交流会		H26.4.6	25(4)	お国自慢料理交流会(留学生とお国の料理を作って交流)中国、台湾、カンボジア、ペルーの留学生が参加	
111	こどもの日交流会		H26.5.6	25(4)	留学生とゲーム、会食、懇談等	

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
112	青少年交流プログラム	一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリー クラブ	H26.7.25～ H26.8.5	1	会員児童(秋田市内の小学5年生)1名が韓国へホームステイ交流へ参加
113	(秋田県国際交流協会主催) あきた国際フェスティバル2014	一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリー クラブ	H26.10.18～ H26.10.19	50	クイズラリーと活動紹介、資料展示
114	ハロウィン交流会		H26.10.26	26(1)	留学生とゲーム、会食、懇談等
115	交流会		H26.11.23	26(1)	留学生とゲーム、会食、懇談等
116	クリスマス交流会		H26.12.14	26(5)	留学生とゲーム、会食、懇談等。ペルー(1)、インドネシア(1)、中国(1)、台湾(2)の留学生 が参加
117	家族交流プログラム		H26.12.27～ H27.1.3	2(0)	会員2名が台湾にホームステイ交流に参加
118	各国料理交流会		H27.1.25	17(7)	留学生と各国料理を一緒に作り交流。ペルー(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)、 ルーマニア(1)、中国(1)、台湾(2)
119	ひなまつり交流会		H27.2.22	未定	手作り和菓子と抹茶で留学生と交流
120	横手・湯沢地区 七夕まつり交流会	秋田県国際 交流をすす める女性の 会(わびえ)	H26.7.7	14(3)	葉竹を立て短冊に願いを書いて飾りつけ在住外国人と伝統を学び交流
121	秋田地区 わびえ奨学プラン2014年度わびえ奨学 金贈呈と交流会		H26.7.27	25(3)	I部「わびえ奨学プラン」の奨学生に対し奨学金を贈呈 秋田大学留学生1名(ベトナム) 秋田県立大学留学生1名(中国) 国際教養大学1名(ベトナム) II部 国際理解のためのワークショップ いろいろな国の写真から見えてくるもの
122	大仙・仙北地区 グランドゴルフで交流		H26.10.5	21(12)	会員と在住外国人がグランドゴルフで交流。母国の人同士の出会いもあり近況報告の 場面もあった。
123	秋田地区 「ハンドinハンドさよなら2014」		H26.12.21	57(38)	留学生や在住外国人と会員が日本伝統の手遊びや世界遺産カルタ等で交流し国際理解 を促進する。
124	大仙・仙北地区 おひな祭り交流会		H27.3.1(予定)	未定	在住外国人と会員が呈茶と手作りお菓子で交流
125	由利本荘地区 第22回ひなまつり交流会		H27.3.8(予定)	未定	留学生、在住外国人、震災被災者家族を招き折り紙でおひなさまの壁飾りを作成し交流
126	(秋田県国際交流協会主催) あきた国際フェスティバル2014		国際交流 オープンクラス	H26.10.18～ H26.10.19	12(4)
127	あなたの国・私の国	H26.12.6(予定)		未定	トーク&トーク 国の紹介(インドネシアの留学生)
128	マレーシアのカレー教室	H27.1(予定)		未定	マレーシアのカレーを留学生に教えてもらいながら、作って食べて交流をする。
129	日本の文化を学ぶ	H26.12.13～ H26.12.14		8	「わらび座」にて【げんない】を鑑賞して交流する。
130	秋田県中央男女共同参画センターまつり	H26.11.11		8	ハーモニープラザまつり2014に参加
131	2014年度通常総会	H26.5.24		40(19)	総会終了後 留学生と家族を交えての交流懇談会
132	文化座公演	H26.6.9		45(30)	文化座「少年と白い馬」公演にモンゴル人を招待
133	モンゴル紹介	H26.7.17	(1)	大仙市立高梨小学校で、留学生がモンゴル紹介	
134	「ホルホグ」を味わう会	H26.7.19～ H26.7.20	31(25)	モンゴルの野外料理「ホルホグ」を味わう	
135	(秋田大学主催)秋田大学送別会	H26.7.30	9(8)	秋大交換留学生の送別会	
136	ファッションショー	H26.8.2	8(7)	各国の民族衣装のファッションショーに参加	
137	(秋田県国際交流協会主催) あきた国際フェスティバル2014	秋田モンゴ ル友好協会	H26.10.18～ H26.10.19	15(10)	県国際交流協会主催のフェスティバルにブース出展
138	送別会および歓迎会		H26.10.19	42(36)	帰国する2家族6人と新留学生5人の歓迎会
139	(秋田ユネスコ協会主催) 日本語スピーチコンテスト		H26.11.16	14(12)	留学生2人が出場し、モンゴル人10名が応援
140	新年を祝う		H27.1.8	9(7)	新年を祝う会
141	(秋田ユネスコ協会主催) 世界の歌を歌おう		H27.1.11	5(4)	世界の歌を歌う
142	モンゴルの旧正月を祝う会		H27.2.19		モンゴルの旧正月を祝う(予定)
143	桜に親しむ会		秋田地区日 中友好協会 県女性委員会	H26.4.29	60
144	海に親しむ会		H26.7.26	50	秋田大学等の中国人留学生を招いての海に親しむ会(出戸浜海水浴場)
145	浴衣で茶会	県女性委員会	H26.9.21	30	秋田大学等の中国人留学生を招いて浴衣を着て茶室での交流会(秋田市内会員宅)
146	国慶節を祝う会	秋田地区日 中友好協会 県女性委員会	H26.10.11	70	秋田大学等の中国人留学生を招いての国慶節を祝う会(秋田ビューホテル)
147	春節を祝う会	秋田地区日 中友好協会 県女性委員会	H27.1.31(予定)	80	秋田大学等の中国人留学生を招いての春節を祝う会(秋田ビューホテル)
148	留学奨学金贈呈	国際ソロブ チミスト秋田	H26.4～ H27.3	1	留学生支援として一年間奨学金を贈呈
149	新年交流会		H27.1.19(予定)	1	交流会に参加して頂き、会員との親睦を図る

大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()書きは、 参加留学生数	事業の内容
1	八峰町との交流プログラム	国際教養大学	H26.5.9, 5.17, 6.20-21, 9.20, 10.6, 10.8, 10.17-18, 10.17, 11.7, 11.14-15, 12.12	74 (70)	平成19年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生(日本人学生および留学生)が訪問し、英語クラスやイベントに参加するなどして、異文化交流を推進している。八峰町内でのホームステイや、小・中学生が大学を訪問しての交流も行っている。
2	大仙市との交流プログラム		H26.5.16, 5.27, 5.29, 6.16, 6.18x2, 6.25, 6.27, 7.7, 7.15, 7.17, 7.18, 8.1, 9.24, 9.25, 9.26, 9.30, 10.1, 10.2, 10.17, 10.20, 10.29, 11.6, 11.7, 11.11, 11.12, 11.13, 11.14, 11.17, 11.19, 11.21, 11.25, 11.26, 11.27, 12.04, 12.05x2, 12.08, 12.09, 12.10, 12.11, 12.15, 12.16, 12.18, 12.19x2, 12.22x2	242 (242)	平成21年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。大仙市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校と本学留学生とが交流。大仙市内へ向向いたり、児童・生徒が本学を訪問するなど、双方向の交流を行っている。
3	男鹿市との交流プログラム		H26.5.9, 5.16, 5.23, 6.6, 6.27, 7.31, H27.1.9	78 (78)	平成22年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。男鹿市内の小・中学校を本学の留学生が訪れ、英語による交流活動を行っている。
4	由利本荘市との交流プログラム		H26.6.19, 6.20, 6.25, 6.27, 10.16, 10.23, 10.29, 11.20, 11.26, 11.28, 12.01, 12.02, 12.04, 12.09	90 (90)	平成23年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。由利本荘市内の小中学校を中心に、小学生と本学留学生との異文化交流を実施している。
5	美郷町との交流プログラム		H26.6.5, 9.29, 10.3, 10.8, 10.29, 11.7, 11.14, 11.21	29 (29)	平成25年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。美郷町内の小・中学校を本学の留学生が訪れたり、小・中学生の大学訪問を受け入れたりしながら英語による交流活動を行っている。
6	仙北市との交流プログラム		H26. 10.18-19, 10.23, 12.10	17 (14)	今年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。仙北市内の中学生の大学訪問を受け入れ、英語による交流活動を行ったり、地元のイベントに参加したりしている。
7	県内教育機関や各種団体との交流		通年	673 (625)	交流協定を結んでいる市町以外の教育機関の児童・生徒や地域の方々との相互交流を行っている。
8	サテライトセンターでのカンパセーションパートナー(講座)		毎週土曜日	44 (44)	秋田市内内徳館ビル二階にあるサテライトセンターでの活動。毎週土曜日に一般利用者が英会話能力の向上を兼ねて留学生と交流をする。
9	バスツアー		H26.4.29, 6.7, 6.21, 9.6, 11.8, 2.14(予定)	787 (450)	県内外の名所や祭等をめぐるツアー
10	鳥海高原菜の花まつり2014	H26.5.31～H26.6.1	239 (16)	由利本荘市が主催するイベントの運営支援を通じて、地域貢献活動を行う	
11	田植体験	H26.5.24	12 (5)	秋田の農業に関する理解と食の大切さを学ぶ、農家の方々との交流を図る	
12	ボート体験会2014	H26.6.28	21 (5)	由利本荘市に根付くボートを体験することで、地域への理解を深める	
13	西施まつり	H26.8.3	100 (9)	伝統芸能を体験することによりにかほ市住民の方々との交流を深める	
14	稲刈り体験	H26.10.13	35 (9)	地域の子供達と一緒に稲刈りを体験	
15	新山裸まいり	H27.1.18(予定)	(10)	約200年の歴史を持つまつりに参加し、秋田の冬行事を体験	
16	大学祭	H26.6.28～H26.6.29	800 (10)	大学祭において所属ゼミは所属学部の催し物に参加し、地域の方々との交流した。全体の参加者数は関係学生数概算。	
17	留学生レクリエーション	H26.10.24	9 (9)	留学生が集まってレクリエーション及び鍋っこ体験	
18	クリスマスパーティー	H26.12.16	30 (9)	寮のクリスマスパーティー参加	
19	スキー体験	H27.3(予定)	未定	秋田県内のスキー場でスキー体験	
20	平成26年度学校の枠を超えた外国人留学生研修	秋田工業高等専門学校	H27.1.10～H27.1.11	43 (38)	東北地区の高専の留学生の研修、交流会。今年度は一関高専で実施する。
21	4月新入学留学生歓迎パーティー	秋田大学	H26.4.3	50 (24)	新入学留学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人チューターによるパーティー
22	夏の留学生実地見学旅行		H26.7.5～H26.7.6	20 (18)	留学生を対象とした県内の自然・文化体験旅行
23	修了パーティー		H26.7.30	49 (15)	8月9月修了留学生のお祝い
24	グローバル夢ミーティング		H26.8.2～H26.8.3	53 (10)	大学から留学生を派遣して、東成瀬村の小中学生と交流
25	10月新入学留学生歓迎パーティー		H26.9.29	50 (35)	新入学留学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人チューターによるパーティー
26	餅つき大会		H26.12.19	70 (40)	留学生と近隣住民・教職員・日本人学生による餅つき体験
27	卒業記念パーティー		H27.1.30	75 (50)	2月3月修了・卒業生のお祝い
28	外国人留学生スキー合宿		H27.1.31～H27.2.1	25 (20)	留学生を対象としたスキー合宿
29	冬の伝統行事体験		H27.2.10	10 (8)	留学生を対象とした冬の祭り体験

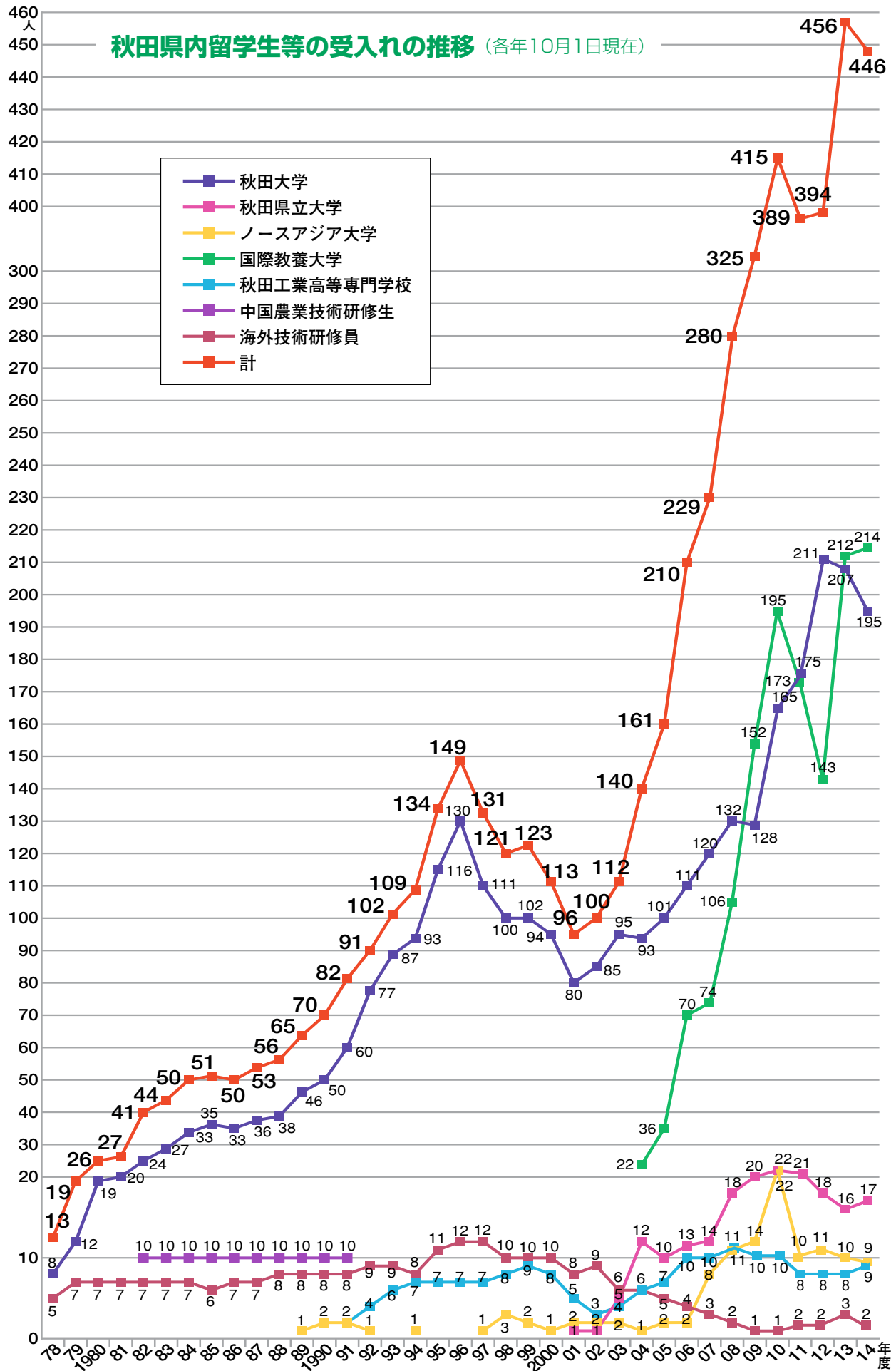
【注1】参加者の()欄については内数で留学生を示しています。また、H27.1.14現在把握の人数で記入しています。

毎週や隔週行っている行事の「参加者」欄については、累計で記入しています。

【注2】事業名欄については、留学生参加の有無に関係なく国際交流に関連するもの全てを記載しています。

留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)



住居形態別留学生数 (平成26年10月1日現在)

住居別	学校等別	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舎		59(39)						59(39)
大学等の学生寮		9(0)		8(4)	206(109)			223(113)
秋田県職員宿舎								
公営住宅		1(1)						1(1)
民間下宿・アパート		110(38)	17(6)		3(2)		2(2)	132(48)
民間企業の社員寮								
ホームステイ								
その他		16(9)		1(0)	5(3)	*9(5)		31(17)
合 計		195(87)	17(6)	9(4)	214(114)	9(5)	2(2)	446(218)

注：()内は内数で女性を示す。
*日本人学生と混合の学生寮

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成26年10月1日現在)

地域・国名	機関名等	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割合
ア ジ ア	中国	69	16	1	13		1	100	61.4%
	台湾	5		3	24			32	
	マレーシア	32		5	1	6		39	
	韓国	13			15			33	
	ベトナム	26			1			27	
	モンゴル	12	1		3	1		17	
	インドネシア	8			1	1		10	
	フィリピン	3			2			5	
	タイ	2			3	1		6	
	バングラデシュ	1						1	
	シンガポール				2			2	
	ブルネイ				4			4	
	ミャンマー				1			1	
計		171	17	9	70	9	1	277	
ア フリ カ	ケニア	2						2	2.9%
	タンザニア	1						1	
	ボツワナ	4						4	
	ブルキナファソ	1						1	
	ジンバブエ				1			1	
	マラウイ	2						2	
	モロッコ				1			1	
エジプト	1						1		
計		11	0	0	2	0	0	13	
オ セ ア ニア	オーストラリア				3			3	1.3%
	パプアニューギニア	2						2	
	ニュージーランド				1			1	
計		2	0	0	4	0	0	6	
中 東	アフガニスタン	1						1	1.3%
	パキスタン	2						2	
	イスラエル	2						2	
	イラン	1						1	
計		6	0	0	0	0	0	6	
北 米	アメリカ				61			61	16.1%
	カナダ				7			7	
	メキシコ				2			2	
計		0	0	0	70	0	0	70	
中 南 米	ブラジル				3			3	1.4%
	ペルー	1						1	
	アルゼンチン				1		1	2	
計		1	0	0	4	0	1	6	
ヨ ー ロ ッ パ	アイルランド				1			1	15.6%
	イギリス				7			7	
	キプロス				1			1	
	ノルウェー				4			4	
	オランダ				1			1	
	ドイツ				2			2	
	フランス				13			13	
	スウェーデン				4			4	
	ポルトガル				4			4	
	ポーランド	1						1	
	チェコ				4			4	
	スイス				1			1	
	スペイン				5			5	
	スロベニア				2			2	
	ルーマニア	3			1			4	
	ロシア				6			6	
リトアニア				4			4		
ブルガリア				1			1		
フィンランド				3			3		
計		4	0	0	64	0	0	68	
合 計		195	17	9	214	9	2	446	100%

平成26年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日時 平成26年12月3日(水) 16:15~17:00

会場 秋田大学一般教育1号館会議室

議事に先立ち、秋田地域留学生等交流推進会議議長の澤田賢一秋田大学長から挨拶の後、各委員の自己紹介があった。

議題

(1) 協議事項

①平成25年度決算報告と平成27年度「地域留学生交流推進会議」事業計画(案)について

事務局から協議資料1-1を基に決算報告があり、了承された。

協議資料1-2を基に、平成27年度の事業計画(案)について、今年度同様ノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田工業高等専門学校80,000円、秋田大学80,000円をそれぞれ負担いただき、計400,000円で運営したい旨説明があり、了承された。また、懇親会招待留学生数については今年度と同様36名を予定しているが、秋田工業高等専門学校からどうしても本会議時期とテスト期間が重なり留学生の参加が困難であるため、割り当てを3~4名(今年は6名であった)に減らしてほしい旨要望があった。

補足として、推進会議懇親会について、2,500円分を本経費にて負担し500円を留学生負担の予定だったが、秋田大学生協で行うことで経費を抑えられたことにより、今年度は全て本経費で支出し、留学生からの支出を行わないことにした旨報告があり、27年度も同様にする旨説明があった。

②その他 なし

(2) 報告事項

①平成26年度学校等別外国人留学生受入数について

事務局から報告資料に基づき、平成26年10月1日現在の受入人数等について説明があった。

②秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の実施状況について

議長より報告資料2の説明があり、各高等教育機関から報告があった。

【ノースアジア大学】

例年と同様に交換留学生を含め中国・台湾・韓国から9名の留学生が在籍している、普段から国籍を問わず授業や行事等で在學生と交流を深めていることなどの報告があった。

【秋田県立大学】

中国・モンゴルから17名の留学生が在籍し、ほぼ大学院生であること、キャンパスのある由利本荘市における地域に根ざした行事体験等を実施していることなどの報告があった。

【国際教養大学】

留学生214名のうち174名は交換留学生であり、地域に偏り無く在籍していること、県内6つの市町村と提携を結び、年間200件を超える交流プログラムを実施していることなどの報告があった。

【秋田工業高等専門学校】

長期の留学はタイ・モンゴル・インドネシア各1名、マレーシア6名の計9名受け入れていること、東北地区の高専から留学生が集まる交流会を一関高専で行うことなどの報告があった。短期の留学は日本学生支援機構の補助金により、提携しているフランスから4名・フィンランドから1名を3ヶ月間受け入れ、フランスへ1名派遣した。また、今年度から本格的にJICAの「ベトナム重化学工業人材育成支援プロジェクト」に協力し、ホーチミン工業大学から2週間ずつ計6名の教員を受入れ、1名を派遣した。

その他、英語研修として、3年生20名をシンガポールに10日間派遣予定であり、今後も短期留学派遣者数を増やしていく予定である旨、報告があった。

【秋田大学】

大学間交流協定校数は、平成26年10月1日現在28カ国・地域53大学となっているが、11月に中国・嘉

興学院と締結したこと、現在バブアニューギニア工科大学並びにヴィッツウォーターズブランド大学と協定締結準備を進めていることの報告があった。また、今年度国際資源学部が新設し、3年次に行く海外フィールドワーク先の開拓のために、資源国での拠点形成を多く行うという方針である旨、補足説明があった。一方で留学生の増加により宿舍の不足等の問題もあり、今後も秋田県からの宿舍費補助などの支援を継続していただきたい旨発言があった。

【秋田県】

海外技術研修員として中国と南米から5か月ほど受け入れており、秋田大学で日本語を学んでいること等の報告があった。

秋田県の留学生支援について平成16年から取り組んでいる「AKITA留学生交流サポート事業」があることの説明があった。県では県民との国際交流活動に積極的に参加する私費留学生に補助を行う高等教育機関に助成しており、留学生と県民との交流活動を活発にすることを目的として行っている。内容としては、居住費支援と国民健康保険加入支援の2つとなっており、以前は留学生へ直接補助を行っていたが事務手続き簡略化のため、留学生を支援する高等教育機関への間接補助方式としている。

また、環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業として、環日本海地域からの留学生を2月頃に県内の文化施設・観光地等へ案内し、秋田県への理解を深める事業を行っていることなどの説明があった。

③平成26年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊2014」の実施報告について

事務局から、報告資料3並びに実施報告書により、本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に採択された助成金を基に、秋田県内大学・高専から留学生・日本人学生・協力教職員が参加した農業体験ツアー・収穫感謝祭ツアーを仙北市西木町にて実施した旨、報告があった。

④日本学生支援機構から留学生交流事業等について

日本学生支援機構の東北支部長から、留学生地域交流事業等の応募・採択状況等に関し、平成27年度は2月上旬~3月中旬にかけて募集する旨説明があり、秋田地域留学生等交流推進会議にも引き続き応募してほしい旨の発言があった。

また、就職支援状況について報告資料4「外国人留学生のための就活ガイド2015」により説明があり、スケジュールに変更があるためホームページでも確認してほしいこと、英語版・韓国語・中国語版も発行していること、12月中旬に最新版が完成予定であることなどの報告があった。また、留学希望者・留学中・留学体験者向けのメルマガを発信していることなどの報告があった。

⑤その他 なし

(3) その他

事務局より、今年度も「あきた留学生交流27号」を平成27年2月下旬に発行予定であり、これから原稿執筆など関係の方々に依頼をする予定であることなどの説明があった。

また、秋田県が欠席となったため、報告資料2-2を基に議長より説明があった。

その後、場所を生協に移して行った留学生との懇親会では、秋田地域留学生等交流推進会議議長である澤田賢一秋田大学長の挨拶の後、参加留学生32名(36名を予定していたが、4名体調不良により欠席)全員からの日本語と英語を交えた楽しいスピーチが披露された。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、大学の垣根を越えて楽しそうに交流する姿が見られた。また、帰り際には他大学の学生との別れを惜しんでいる様子も見られ、普段ふれあう機会の少ない他大学の学生との交流をはかることが出来る有意義な懇親会であることを再確認した。

秋田地域留学生等交流推進会議要項

(設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

(委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 秋田地域の関係大学等の長
- 二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名
- 三 学識経験者 若干名

2 委員は、議長が委嘱する。

(役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。

2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 議長は、推進会議を招集する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

(顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

(委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(事務)

第7 推進会議の事務は、秋田大学国際課において行う。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

附則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

附則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

附則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

附則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

附則

この要項は、平成25年12月4日から実施し、平成25年4月1日から適用する。

秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成22年4月1日制定
平成25年12月4日一部改正

(趣旨)

1. 秋田地域留学生等交流推進会議要項第8の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

(事業費)

2. 推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大学名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田工業高等専門学校	80,000円
秋田大学	80,000円

(事業年度)

3. 推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(負担金の納入)

4. 負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際課において行う。

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成26年12月3日現在

区分	所属	職名	氏名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所長	九島 亮胤
	秋田県	知事	鳥谷 敬久
	秋田県市長会	会長	穂積 志
	秋田県町村会	会長	齋藤 正寧
	秋田市	市長	穂積 志
経済団体	(一社)秋田県経営者協会	会長	藤原 清悦
	秋田県商工会議所連合会	会長	三浦 廣巳
	秋田県中小企業団体中央会	会長	藤澤 正義
	秋田県商工会連合会	会長	村岡 淑郎
	秋田県農業協同組合中央会	会長	木村 一男
国際交流関係団体	(公社)秋田青年会議所	理事長	田口 正人
	秋田ロータリークラブ	会長	江島 清彦
	秋田国際交流団体連絡会	会長	佐々木 正光
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	伊藤 彰子
大学・高専	秋田魁新報社	代表取締役	小笠原 直樹
	ノースアジア大学	学長	小泉 健
	秋田栄養短期大学	学長	小泉 健
	聖霊女子短期大学	学長	平垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学長	青木 光子
	秋田県立大学	学長	小間 篤
	国際教養大学	学長	鈴木 典比古
	秋田工業高等専門学校	校長	山田 宗慶
	秋田看護福祉大学	学長	小泉 健
	秋田大学	学長	澤田 賢一

秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

1. 目的
この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。
2. 内容
民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。
3. 貸与金額
貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。
4. 申請
貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
5. 選考
本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。
6. 貸与
貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
7. 返済期限
貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
8. 返済方法
貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。
9. 返済の猶予
貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
10. 事務
貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際課が行う。
11. その他
この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

附 則

1. この要項は、平成13年11月28日から実施する。
2. 秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

(別紙様式1)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書

申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 円	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印	
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) 印	

(別紙様式2)

借 用 証 書

借用金額	金 円
上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。 については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。	
記	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 借受人 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) 印	

(別紙様式3)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書

猶予申請事由	
返済猶予金額	円
返済猶予期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印	
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきたいので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) 印	

■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」(毎年2月下旬発行)を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



「第三の故郷を見つける農家民泊2014」
では仙北市西木町の農家のみなさんと交流を深めた。

あきた留学生交流 第27号

(2015.2発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局
(秋田大学国際課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp